

## 会 議 録

会議名 (審議会等名)		相模原市立中学校給食検討委員会(第2回)				
事務局 (担当課)		学校保健課 電話042-769-8283(直通)				
開催日時		平成26年9月8日(月) 午後1時~3時				
開催場所		相模原市役所会議室棟 1階 第2会議室				
出席者	委員	11人(別紙のとおり)				
	その他	0人				
	事務局	3人(学校保健課長、他2人)				
公開の可否		可	不可	一部不可	傍聴者数	0人
公開不可・一部不可の場合は、その理由						
会議次第		1 開会 2 あいさつ 3 議題 (1) モデル事業の実施について ア 提供方法について イ 評価方法の内容について ウ モデル実施校の選定について エ 温かい給食の提供を全校で実施した場合の試算について (2) 今後のスケジュールについて (3) 中学校給食調理業務委託契約について (4) その他 ・今後の中学校給食の方向性について 4 閉会				

## 審 議 経 過

主な内容は次のとおり。( 〇 は委員の発言、 △ は事務局の発言 )

### 1 開会

### 2 あいさつ

吉岡会長あいさつ

### 3 議題

事務局より資料の説明を行い、質疑・意見交換を行った。

#### ( 1 ) モデル事業の実施についてについて

##### ア 提供方法について

汁物を食缶で実施する場合は日課等にも影響があるが、個別容器であれば対応可能と考える。なお、学校給食センター校で汁物の食缶を生徒が運ぶときには、階段は使用させずにエレベーターを使用している。

生徒は汁物運搬に慣れていないためこぼす恐れがある。学級担任の指導範囲が増えることも考えられるが、実際に実施してみないと分からない。

学級担任にも事前に説明する必要がある。

生徒への周知は、給食時間中にビデオを流すことも出来る。予備知識を入れておいた方が良い。

献立は他の学校とは別なのか、同じ献立に単に汁物を付けるのか。

基本は一緒に汁物が付くが、おかずの分量を少し減らしその分で汁物を作るイメージである。

ご飯の量の選択について、キャンセルや追加の予約があった場合はどうなるのか。30g減らした場合でどのくらい変化があるのか。

30gでは2口ぐらいだと思われるので、見た目はあまり変わらない。50gだと卵1つ分くらいの違いがある。

予約手続き及び予約数の確認については、通常通り予約をしていただき、ご飯の量の調査は、利用者全員を確認し集計した名簿等を作成する。調理事業者では給食実施1週間前の予約確定後に名簿をもとに、それぞれの数を確定させる。

ご飯容器に違いはあるのか。

蓋の色を変えることで、区別することを考えている。

蓋が違えば大丈夫だと思うが、30g程度の違いでは、見た目であまり分からないと思うので、取り間違いが考えられる。

センター校もご飯は230gだが、多い少ないといった話が出たことは無い。

センター校は、おかずの量で調整できるから良い。

汁物以外のカレー等は出すことを考えていないのか。

モデル事業では考えていない。本実施になればそういうことも可能である。

生徒のご飯を食べる量は、おかずの内容や日によって違っている。

保護者に対してのPRも必要である。

周知について、通知だけでは生徒が持ち帰らないことも考えられるので、何かいい方法を考えていただきたい。

学校からの配布物について、封筒に入っていると、生徒が持ち帰る傾向がある。

温かい汁物が付けば、食欲も出るのではと思うが、どのような汁物を考えているのか。

モデル事業では、みそ汁やスープ類が考えられる。

汁物の提供とご飯の量の選択を同時に実施し、アンケート結果を分析したときにどちらの要因によるものなのか特定できない。汁物の提供だけでもいいのではないか。

モデル事業で実施できるか分からないが、食育についても今後考えていきたい。

#### イ 評価方法の内容について

給食時間が短いという課題があるが、量が多くて時間が足りないのか、単純に時間が短いのか、アンケートで確認が出来るような内容にしたほうがよい。

アンケートの項目に「今後出してほしい汁物メニュー」や「容器の関係」についても追加する。

アンケートの内容については、次回検討を予定しており、まだ時間もあるので、アンケート項目を追加したほうがよいと思われる事項があれば事務局まで連絡をお願いしたい。

#### ウ モデル実施校の選定について

事務局で配膳室の調査をした中で、候補となる学校の考えはあるか。

配膳室の広さ、備品の購入が不要など諸条件を勘案すると麻溝台中や相武台中程度の学校規模が望ましいものとする。

条件により限定されてくることは理解する。提案いただいた中学校から、事務局で具体的に学校と調整していただき決定していただきたい。

#### エ 温かい給食の提供を全校で実施した場合の試算について

特に質疑等なし。

#### (2) 今後のスケジュールについて

特に質疑等なし

#### (3) 中学校給食調理業務委託契約について

特に質疑等なし

#### (4) その他

・今後の中学校給食の方向性について

温かい給食の提供等、出来るところから改善していくほうが良い。容器についても使いやすいものに変えたほうが良い。

他市の状況等も確認し、取り入れられるものを取り入れていければ、より良い給食になるのではないかと。

今回のモデルでの汁物の提供でどのくらい変わるのかをみて判断していきたい。

モデル実施の親への周知は、PTAにも依頼してはどうか。

自分の子供は、以前は一度も給食を食べていなかったが、月何回かは食べるようになった。汁物が付けば給食も食べやすくなると思う。

牛乳を飲む時間がないということも子供から聞いている。

単独校方式等が理想になると考えられるが、市内統一で実施することは難しいと思うので、親子方式や食缶によるデリバリー方式等、各学校の実情に合わせた実施を考えたほうが良い。

食に関して正しく判断できる力を育てていくことが大切である。

中学生全員が給食を食べることが理想と考える。それが出来るような方式を考えていければ良い。

食育についても、養護教諭との連携や家庭科の授業等での実施についても考えていきたい。

一括予約が導入されて、予約忘れが減り良かった。

アレルギーの問題があるので、今の選択制は自由度があって良い。給食では足りないという生徒は弁当を持参することが出来る。どちらを選ぶのかということも食育である。

ご飯の量をあまり減らすと、給食費の問題も出てくることも考えられる。

30g減らしても、見た目も大して変わらないのであれば、小盛りではなく言い方も考えた方がよいのではないかと。

大人になってから思い出になるような給食になってほしい。

学校給食と食生活等にかかる全国調査との比較の中で、本市の生徒は朝寝坊、夜更かしの傾向があり、中学校給食と食育の関係づけを深めた事業とする必要がある。

最終的には、全員が食べることを前提とした給食が実施される方向になればよいと思う。

次回の検討委員会では、モデル事業の内容の確認やアンケート内容の検討を実施する。

今後の中学校給食の方向性についても検討していく。

#### 4 閉会

以 上

## 相模原市立中学校給食検討委員会委員出欠席名簿

	氏 名	所 属 等	備 考	出欠席
1	吉岡 有紀子	相模女子大学栄養科学部	会 長	出席
2	伊与 亨	北里大学医療衛生学部		出席
3	小嶋 理史	相模原市立小中学校 PTA 連絡協議会		出席
4	小関 和代	相模原市立小中学校 PTA 連絡協議会		出席
5	堺 千里	相模原市立小中学校 PTA 連絡協議会		欠席
6	水野谷 珠世	相模原市立小中学校 PTA 連絡協議会		欠席
7	高原 麻美	相模原市立小中学校 PTA 連絡協議会		出席
8	黒瀧 直行	新町中学校	副会長	出席
9	北村 正弘	青野原中学校		出席
10	小泉 勉	旭中学校		出席
11	山本 真	相武台中学校		出席
12	朴木 昇	相陽中学校		出席
13	高橋 純子	城山学校給食センター		出席
14	高橋 陽子	公募		欠席